

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2026年3月4日

No. 8

組合：安全な職場を確立し技術断層をなくすため

ベア満額回答せよ！！

会社：JR貨物の賃金水準は低いとは認識していないが

要求の根拠を受け止め会社の考えを示したい

～「2026年度新賃金要求の申し入れ（申第4号）」第2回団体交渉報告～

中央本部は本日、2026 JR総連春闘第2回団体交渉（要求の根拠）を行ない、以下の通り主張しました。

1. JR貨物の平均基準内賃金は、国内全産業平均の約85%となる。採用市場のみならず労働市場の中でも大きく見劣りしている。ベースアップの満額を実施し、選択されるJR貨物としなければならない。
2. 会社は、昨年一律2,000円のベアを実施したが、定期昇給を含めても平均2.39%の賃上げに留まり、同年の消費者物価指数の総合指数は、前年比3.2%上昇している。このような中で組合員は、苦しい生活を強いられている。
3. 健康保険や介護保険の負担が増加しており、社会保険料が引き上げられ、組合員の可処分所得が減少し続けている。
4. 自然災害による輸送障害や相次いだ脱線事故の復旧作業などに対して、組合員は昼夜を問わず全力で対応し、安全の確立と安定輸送を果たしてきた。この苦勞に対し会社は報いるべきである。
5. 離職率は2%を超える高水準で推移しており、職場の要員不足や教育・技術継承の問題が深刻化している。賃金や休日数などの労働条件を改善させ、新規採用と社員の定着をはからなければならない。
6. 昨年から貨物駅構内において入換中の事故が多発しており、1月27日には南長岡駅構内で両足を切断する労働災害が発生した。組合員の命に関わる重大な事故であり、同種事故を撲滅し、労使で真の原因究明と再発防止対策の構築にむけて取り組まなければならない。
7. 以上のことから、組合員の措かれた現実を会社は重く受け止め、貨物労組が要求した『ベースアップ18,000円の額による回答』と、『113項目に及ぶ切実な諸要求の実施』を強く要求し、誠意ある回答を求める。

（次ページへつづく）

貨物労組の要求の根拠に対して会社は、次のような考え方を示しました。

1. 要求の根拠として、JR貨物の平均基準内賃金が全産業平均の約85%と主張しているが、全産業平均は所定内賃金であり、JR貨物の所定内平均賃金は328,368円である。したがって、当社の給与水準は全産業と同水準の認識である。
2. 最近の物価上昇は、3%を超える水準であり、貴組合が主張する生活必需品や金利の上昇、社会保険料の負担が増しており、実質賃金が追いついていない状況であることは認識している。
3. 会社の経営は厳しい状況だが、応えるものは応えていかなければならない認識である。
4. 来年度の新規採用は、ほぼ計画値通りに進んでいる。しかし、今年度は入社6年目から14年目の技術を持った中堅社員の離職が増加傾向であり、離職防止にむけて様々な対策を講じていく。
5. 社員の基本給にかかわる重要な交渉であることは認識しており、貴組合の主張と採用や離職の状況もあわせて次回の交渉で示していきたい。

現時点の会社の考え方に対し、中央本部は以下の通り主張しました。

1. JR貨物の平均所定内賃金は328,368円であり、調査した結果、誤認があったが、高い数値だとは思えない。ベースアップを満額回答し、産業間格差や企業間格差を是正させることが必要である。
2. 若年社員は、物価上昇などにより生活が苦しく、食費を抑えながら日々業務を遂行している。会社として、まず実施すべきことは組合員の生活水準を上げることである。
3. 我々の業務は、常に危険と隣り合わせであり、負荷も大きい作業である。そのなかで高い知識と技術力を発揮している。会社は我々の労働力の価値に見合った賃金にするべきであり、今春闘においてベースアップで応えること。
4. 若年のみならず、職場の中心となる中堅社員が離職しており、技術断層が発生している。ある支社では、今年度の新入社員数に迫る離職者数が発生しており、通常業務が遂行できない状況にきている。
5. 世間では、人材確保にむけて大幅な賃金の引き上げや、休日数を増やしている。人材確保と離職防止、技術断層の解消にむけて、諸要求の改善もあわせて社内で議論すること。
6. 昨年4月から初任給調整手当を新設したが、5年目までの社員までしか手立てがなく、6年目以降の社員の賃金改善も必要でありベースアップを実施しなければならない。会社は、組合員の生活実態を受け止め、我々の要求に満額で応えることを求める。

貨物労組の主張に対して会社は、「貴組合の主張を受け止め、次回会社としての考えを示していきたい」と回答しました。

組合員のみなさん！いよいよ「闘争ゾーン」に入ります。会社は、「実質賃金が追いついていない状況である」「応えるものは応えていきたい」としながらも、経営状況が厳しいことを示し続けています。

私たちが苦しい生活を強いられながらも、「社会に役立つJR貨物」を実現するために、職場から奮闘している労苦に応えさせ、安心して生活できる賃金と、諸要求の実現にむけて全組合員が結集し、会社に声をあげようではありませんか！

中央本部は、その最先頭で奮闘していくことを申し上げ、第2回交渉報告とします。

以上

次回、第3回交渉（会社の考え方）は3月11日(水)です。